

子供の独立後、採光・通風のよい2階にLDKを移動

兵庫県 Y邸

■耐震性の高い2×4住宅に住み続ける

子供が独立したため、夫婦2人暮らしのライフスタイルに合うようリフォームされたY邸。1988年に建築し、震災を経て住み続けたツーバイフォー住宅の耐震性を実感していた夫妻は、「建替えるよりも住み慣れて愛着のある家をリフォームしたい」と思い、わが家建ててくれた会社に頼むのがいいんじゃないかと考えました。構造に関わることも対応してもらえたので、「正解でした」と語りました。

■LDKを2階へ、1階に趣味室を新設

夫妻の要望を受けて実施されたのは部屋の配置替えによるリフォームです。コの字型の間取りを活かし、1階にあったLDKは、南からの陽光が中庭を通じて差し込むように2階の北側に移され、以前のLDKはご主人の部屋に。また、1階北側にあった和室は楽器ルームにリフォームされました。戸襖だった入り口はガラスの引戸に変更。開口部の上は構造壁でしたが補強をすることで開口高を広げ、「中庭まで一体感のある開放的な空間にしたい」という夫妻の望みも叶えられました。



間口6m、奥行15.2mの細長敷地に建つY邸は真ん中に設けられた中庭を囲むコの字型プラン。中庭側の三面には窓がたくさん配され、採光・通風を図る設計になっている。

「キッチン明るくしたい」という要望が叶った2階北側のLDK。部屋の真ん中にあったロフトへの階段は取り外せるものに変更された。



子供室に使われていた2階北側の洋室。

吹抜けのLDKにはロフトからも自然光が差し込む。「モノトーンの落ち着いた色調がとても気に入っています」と奥様。



開口高をまぐさより上げて上部を補強。「ガラス引戸は上吊りなので、開けると室内と廊下の床がつながり、中庭まで1部屋のような開放感が大変心地よいです」と夫妻。



リフォームのプロが語る

ツーバイフォー工法を熟知し
柔軟な発想をもって
適切なリフォーム提案を

大成建設ハウジング(株) 近畿支店
リフォーム営業グループ 課長
吉川 知里さん



この住宅は、約30年前に外部からの視線を気にせず生活できるようにと、コの字型プランで建てられました。今回のリフォームは、間取りの中央にある中庭の効果をさらに活用する設計にしました。ご夫婦のみの生活になり、今後ずっと心地よく楽しく暮らせるように、部屋の配置替えをして、中庭がもたらす採光や通風、開放感を十二分に得るためのリフォームを意図しました。

このような全面リフォームを可能にするのも、構造躯体が堅固なツーバイフォー住宅ならではのことで、そしてその構造を熟知し、お客様の要望にどうしたら応えられるか、良策を導き出すことで、この事例のように、「一度は諦めかけた開放的な空間が実現した」と喜んでもらうことができます。これからも、柔軟な発想をもって、適切な対策となる良い提案をしていきたいと思っております。

畳からフローリングに変わり、手前の入り口にガラス引戸が設置された楽器ルーム。チェロの演奏を楽しむご主人はツーバイフォー住宅の遮音性にも満足している。



30年前の新築時、デザインにこだわった浴室と同じように、間仕切りや扉にガラスが用いられたシステムバスに変更。バリアフリーや掃除のしやすさにも配慮された仕様。



洗面室から続く浴室。



1階の北側にあった和室。



DATA

リフォーム年 / 2019年 築年数 / 30年
規模 / 3階建て 延床面積 / 133.11㎡ (40.27坪)
リフォーム面積 / 133.11㎡ (40.27坪)
設計・施工 / 大成建設ハウジング(株)